

氏名	松 田 和 実
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3859号
学位授与の日付	平成15年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	先天性股関節脱臼に対するoverhead traction法の効果-大腿 骨頭の位置および関節唇形態の変化-
論文審査委員	教授 村上 宅郎 教授 平木 祥夫 教授 吉良 尚平

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

先天性股関節脱臼に対する overhead traction 法の役割について本法を施行した 47 例 56 股の牽引前後の 2 方向股関節造影像を用いて調査した。男性 5 例 6 股、女性 42 例 50 股であった。歩行開始前が 41 股、歩行開始後が 15 股であった。牽引施行時期は 5-22 カ月、平均 9 カ月であった。1974 年から 1988 年は Mau の報告した原法を用い(38 股)、1989 年から 2000 年は石田の改良法を用いた(18 股)。成績は前者の方が劣っていた。41 股中 19 股で牽引後に大腿骨頭が臼入口部に相対する様に整復されていた。前方関節唇の内反変形は 52 股中 8 股で矯正されていた。これらは全例歩行開始前の症例であった。上方関節唇形態は不変であった。本研究により overhead traction 法、特に改良法は大腿骨頭を臼入口部に相対するよう位置させる効果は大きい、関節唇形態への効果は小さいことが明らかとなった。すなわち reduction に対する効果が大きく、reposition に対する効果は小さいことが判明した。

#### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、先天性股関節脱臼に関する overhead traction 法の役割について本法を施行した 47 例 56 股の牽引前後の 2 方向股関節造影像を用いて調査したものである。

本研究により overhead traction 法、特に改良法は大腿骨頭を臼入口部に相対するよう位置させる効果は大きい、関節唇形態への効果は小さいことが明らかとなった。

すなわち reduction に対する効果が大きく、reposition に対する効果は小さいことが判明した。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。